共同運営部門：＜周産期センター＞産科医療センター

―関係部署―

産婦人科

―概要―

2008年度より、市立貝塚病院産婦人科との集約化の結果、泉州広域母子医療センターとして再編され、当科は周産期センター産科医療センターとしての機能を担って10年目になる。婦人科手術と悪性腫瘍の化学療法は市立貝塚病院にて産婦人科医が行い、当院では夜間休日の産婦人科一次・二次救急、分娩、母体搬送、産科手術を担当している。また、産科病棟（6階山側病棟）は2009年より完全母児同室を開始したが、2020年度は新型コロナウイルス対策として面会制限をかけざるを得なかった。

これにより以前にも増して小児科、内科、外科、救命救急センター等との緊密な連携のみならず泉州地域の産婦人科医院との病診連携も強め、ハイリスク妊娠の集学的管理や早産児の受け入れなどもしている。対外的には地域周産期センター及びOGCS（産婦人科相互援助システム）準基幹病院となり、母体の緊急搬送受け入れ数も毎年160件前後、産婦人科一次救急の受け入れは府下2位の実績がある。

外来診療体制は従前と変わらず、産科・婦人科ともに初診再診を受けることにしている。助産師外来は妊娠中や産後2週間健診を含め育児技術指導やメンタルヘルスチェックなどの助産師の特性を生かした外来づくりを行っている。また正常妊娠・正常分娩の方にも分娩・育児していただくため、助産師外来の拡充、4D超音波を導入している。更に、分娩後アイスクリームのサービス、産後食としてお祝い膳を用意している。2020年度より新たにコーヒーメーカーを導入し、産婦が好きな時に飲めるコーヒーサービスを追加した。また、貝塚市・泉佐野市・熊取町・田尻町・泉南市・阪南市・岬町の皆さんの分娩費用は市内扱いとしている。（詳しくはホームページ参照）

今後は全国的にも注目されているこのシステムを発展させ、広域に亘る中核病院としての役割を果たせるように間断なき努力をしていく所存である。

―実績―

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
分娩数(含死産)	836	810	807	845	624
多胎/早産 (25週 500g以上 OK)	20/101	17/142	14/139	19/92	21/86
帝王切開	241	195	181	201	177
時間外婦人科手術	38	40	44	36	28
その他の産科手術	3	3	5	4	6
合併症妊娠	498	468	471	511	317
母体搬送受け入れ	168	139	141	155	183
時間外救急	1,689	1,577	1,602	1,282	1,072
救命救急センター症例	19	24	19	21	13

―今年度の成果と反省点―

今年度も一次救急（府下2位）の受け入れ、府下7位の母体搬送受け入れ、府下最多の母体救命症例の受け入れをし、周産期中核病院としての成果を挙げた。新型コロナウイルスの影響で分娩数は減少している。ハイリスク妊娠受入の割合の増加と正常妊娠の割合の減少が同時に起こっているところが成果であり、反省点でもある。

「りんくう発」としては泉州救命救急センターと協働で立ち上げた周産期蘇生二次コース「PC^3」（ピーシーキューブ）の受講生が1,000名を超え、全国規模となっている。今後も継続して安全への取り組みに邁進する。

―来年度への抱負―

ローリスク分娩数の確保は周産期センター維持のためには極めて重要であるだけに、分娩数の増加についての更なる方策を講じたい。それには何より分娩の集約化・重点化とともに妊婦検診を近隣で受けられるスキーム作りの重要性について発信を続けていく予定である。

また、先述のPC^{3}や新生児蘇生コース（NCPR）、学会認定の妊産婦蘇生コース（JMELS：京都プロトコル）などのセミナー教育を通じて地域の周産期医療レベルの向上に寄与していきたい。